

管収益のみを考へて餘りに凡てに驅け離れたる風土に住するは健康上にも亦體面上にも考へものと云ふ可し、然れば左の如き條件を具備するの地ありとせんか、そは最も適處なりとせざる可らず。

- 一、目的が醫術開業なれば入國を拒絶せられざる事。
  - 二、開業試験は英語又は獨逸語を使用する事或は通譯を附して日本語の使用を許可する事。
  - 三、氣候風土習慣吾人に大なる苦痛を與へざる事。
  - 四、在留本邦人成る可く多數なる事。
- 以上の諸條件を満足するものは著者の理想なり、然れども各人各個の關係を斟酌す可ければ、適地の選擇は各々の判斷に委すとして茲には敢て呷々せず。今左表によりて在留邦人數を見るに北亞米利加を第一位となし支那本部を第二位とす、然して布哇に於ける九七、七四九及桑港市并に其附近の四七、八八五は其最たるものなり、然れば苟も米國政府統治下に於ける醫事方面に關する事項は細大漏す處なく殊に布哇を標準として順を追うて記載する事としたり。

海外に於ける在留邦人數

海外に於ける在留邦人數	二七、七七〇
支那本部に於ける本邦人合計數	二四、四四九
南亞米利加	五、四〇九
内 秘露	一五、二二二
伯刺西爾	

南部亞細亞及大洋洲に於ける	二六、七三三
内 香港佛領印度支那	二、〇二七
暹羅	二二四
新嘉坡及其他各地	七、一〇三
蘭領東印度(瓜哇スマトラ諸島)	三、九五六
比律賓群島	六、三五八
北亞米利加に於ける本邦人合計數	二二、三、七二〇
内 布哇	九七、七四九
シヤトル及タコマ等	一七、七二四
桑港及其附近	四七、八八五
ロスアンジェルズ及其附近	一三、七六六
紐育及其附近	二、七九八
墨西哥	二、七三七
西比利亞に於ける本邦人合計數	五、一四八

(以上大正五年六月調査)

### 布哇の歴史的概念

本群島に最も早く居住せしは所謂ポリネシアンなり、現土人カナカの祖先にして西暦紀元前五〇〇年の頃なりと云ふ、本群島が世界に紹介せられしはマゼランの太平洋発見後二五〇年にて即ち一五五五年西班牙人ガエタノ、フェンの発見によれり、後一七七八年英人キャプテンクック同群島を発見し英國王の名の下に占領す、一八二〇年始めて米國の宣教師來る、一八四二年北米合衆國布哇の獨立を承認す、一八六八年最初の日本人布哇移民來る、一八七六年日本帝國軍艦筑波始めて來航し、一八九二年同金剛及浪速來航す、一八九四年在留米人獨立共和國を樹立す、一八九五年及一八九七年帝國軍艦高千穂、浪速相次て來航す、一八九八年北米大統領マッキンレー在布米人布哇合併の乞を容れて一九〇〇年に及び遂に合衆國の一縣となす。

### 布哇の地理的概念

布哇群島はハワイ、オアフ、モロカイ、ニイハウ、マウイ、ラナイ、カワイ、カホオラウエの八島と他の諸小島よりなり、太平洋中北緯一八度五四分と二二度一四分の間に横はり西經一五四度四八分より一六〇度一三分に至る、殆ど太平洋の中心點に位し横濱を去る事三四四五海里二萬噸級の大飛脚船にて晝夜走航するも約一ノ日を要す可し。

布哇の面積

全群島の面積は總計六四五四方哩にして我が四國(約七〇〇〇方哩)より稍々小なり、其他質は殆ど全部火山岩の崩壊したるものにして岩石は盡く火山岩なりと雖も時に水成岩の疊積せるを斷崖に見たる事あり。

### 布哇の氣候

群島は熱帶國內に屬すれども四時貿易風の影響を被れば熱帶地の暑熱を感せず、極熱の時と雖も華氏九〇度を越ゆる事少く極冷の時六〇度以下なる事稀なり、過去一五年間の最高平均温度八九度にして最低平均温度は六二度なり、一ケ年を通じての氣温の變化を左に示す。

月	最高	最低
一	七八	六三
二	八〇	六〇
三	八〇	六一
四	八〇	六四
五	八二	六四
六	八三	六八
七	八四	六九

布哇の歴史的概念 布哇の地理的概念 布哇の氣候

八	八七	七〇
九	八五	七〇
一〇	八六	六八
一一	八二	六七
一二	八三	六五

数字上の記載のみにては未だ眞を穿ち難ければ左に簡單なる説明を試むる事とせり。

一年中の氣温殆ど同一なれども一二、一、二の三ヶ月はネルの單衣に袷羽織を重ね或は冬服を用ゆるを常とす、夜間の外出の如きは冬期用オーバーコートを要する事すらあり、又七、八、九の夏期に於て夏服にて尙チヨッキを併用するも暑熱を感じるが如き事なし但し多少なりとも勞働を試むる時は流汗の止むなきを覺ゆる事多し、又眞夏の夜窓を閉ぢて寝に就くも日本の夏期に於ける如く蒸し暑き苦痛を感じるが如き事なし、夜間と日中との温度は可成りの差あり、一五乃至一七度を數ふるに至る事すらあり、此の晝夜温度の差とホノルル市の地形（市の三方は山嶽起伏し市は其谿谷の底に在り）によりて日没と殆ど同時に露を結ぶを常とす、人若し風なきの半宵星を戴いて芝生を踏む時は大露の既に下れるを知る可し、以上の事實は専らホノルル市に於けるものなれば各處に散布せる群島によりて多少の差異あるは勿論の事なり。

布哇に於ける四季

布哇に於ける季節は熱帶圈内と雖も四邊の風物に些の注意を拂ふ時は春夏秋冬の四季あるを感ず。

春の季節

三、四月の候朝起き出づるに庭木、敷石等しつとりと濡れて夜來の雨故國春曉の風情あり、ホノルルの郊外に見渡す限り一尺位の高さに青々としたる黍本科の雜草一面に生ひ立ち居る様母國の麥畑を連想せしめて止まず、然も揚雲雀の虚空遙に囀るるを聞けば春興自ら湧き出でざるを得ず、胡蝶も此の季節に盛に浮かれ飛ぶ、ホノルル附近にてはしるてふ、あかまだら、立羽（蛺蝶科）蛻蝶（小灰蝶科）のみにて熱帶地特有の他の種類を見出さず、グワバの雜木林に茶の如き花を慕ひて浮遊する様亦春興を陵るの一助たり。

揚雲雀

胡蝶

夏の季節

ホノルルの夏の氣分は常夏と云はるゝ位故此處に述る必要なけれども此の期節には市の三方を取り圍む山々の近くに村雨に類したる降雨多き爲め鮮明なる虹の立つ事屢々なり、而して非常に近き距離に突然起る爲め殆ど直立せる如き觀ありて然も二重や三重になる事珍らしからず、其虹を構出する細雨の斜に降り注ぐを近くにて眺むる時は全く七彩の細粒互に規則正しく活動せる如く見ゆ、然れば自分は之を「生ける虹」と稱したりしが宜なる哉布哇の傳説にはマノア谿谷に虹の女神カハラオプナの住めるを説けり、自分は之を布哇に於ける最美にして最も雄大なるものと信じて疑はず。

生ける虹

此の季節には星や月の光非常に強烈にて天空は一體に低きが如き氣分なるを常とす、曉の明星の如き其れの光のみにて物に陰影を置く位なり、此の季にはピンクシャワー（桃雨花）花盛りにて恰も八重櫻の如くゴールデンデン、シャワート（金雨花）は山吹の如し、此れ等の花瓣雨に打たれて白きサイド、ウォークに散り敷かれたる風情は印象派の畫家をしてペンセルを取らしむるに足る可し、又ベウヒニヤ俗に

布哇に於ける衛生状態

秋の季節

冬の季節

ホノルル市に於ける雨量、湿度

トーマス樹の花は布哇暑熱の表徴と云はんか遠見する時は全く火焰の如く其色はセント、トーマスの血痕と古より云ひ居れども寧ろ火の神ペレのシンボルと稱する方適當ならんか。秋の季節には蟬盛に叢にすぎ、蔗の穂又尾花の夫れの如く銀色に輝く。冬に至ればカマニ樹の紅葉殊に目立ち又はらくくと風なきに落葉す、然れども枯木零林の風情は決して見る事なし。

ホノルル市一ヶ年の気圧、雨量、湿度、氣濕及風力を次に示す。

年	月	氣壓	雨量	湿度	氣温	曇天	風力
		(午後八時)		(午後八時)	(平時)	(割合)	
一九一六年	七月	三〇、〇五	一、七二	六九	七五	三、九	二、八
"	八月	三〇、〇六	一、〇九	六九	七六	四、三	八、二
"	九月	三〇、〇二	〇、六〇	六七	七七	四、七	七、六
"	一〇月	三〇、〇〇	一、二二	七〇	七六	五、一	七、三
"	十一月	三〇、〇六	一、三一	七〇	七四	五、七	八、七
"	十二月	三〇、〇〇	五、五四	七二	七二	六、一	九、二
一九一七年	一月	二九、九七	八、三二	七五	六九	四、八	八、一
"	二月	三〇、〇四	二、〇五	七四	六八	四、九	七、九

年	月	氣壓	雨量	湿度	氣温	曇天	風力
"	三月	三〇、〇四	一、五八	七三	七二	六、九	七、七
"	四月	三〇、〇八	一、六一	七二	七三	五、二	七、六
"	五月	三〇、〇七	一、六五	七一	七五	四、四	六、四
"	六月	三〇、〇八	一、五六	六六	七六	四、三	七、五
一ヶ年平均		三〇、〇四	四、五八	七〇、六	七三、六	五、〇	七、九

布哇に於ける人口及人種別(一九一七)

人種	一九一〇年	一九一七年	増△減×
日本人	七九、六七四	一〇〇、四七九	△ 二二、八〇五
朝鮮人		四、七三四	△ 四、七三四
布哇土人	二六、〇四一	二二、四五〇	× 三、五九一
葡萄牙人	二二、三〇三	二二、九九〇	△ 一、六八七
支那人	二一、六七四	二二、一〇〇	△ 四二六
米英獨露人	一四、八六七	三〇、二一八	△ 一五、三四一
比律賓人	二、八〇〇	一九、一〇〇	△ 一六、三〇〇

布哇に於ける人口及人種別



布哇に於ける衛生状態

混血土人	一二、五〇六	一五、八五〇	△	三、三四四
ポルトリカン	四、八九〇	五、三四〇	△	三五〇
西班牙人	一、九九〇	二、九二〇	△	九三〇
其他	五、一六四	六四六	×	四、五〇八
計	一九一、九〇九	二五〇、六二七	△	五八、七二八

布哇に於ける各國人口消長(一九一一年—一九一七年平均)

入國及出生者總數	去國及死亡者總數	差引増加	差引減失	平均一ヶ年増減	一九一七年現在人口
四、一四八	六、五三三	二、三七五	(減) 三、一五五	三、三九〇	一、五八五〇
四、九六三	一、四五四	三、五〇九		二、三三三	二、三九〇
八、四九六	六、六四三	一、八四七		二、二六	二、九二〇
五、六二八	四、七四三	八八五		二、三三	五、二四〇
一、四九六	一、二八一	二七		二、九	三、一〇〇
七、四九六	六、六五九	八三九		二、〇〇〇	一〇、二四七
四、九三二	三、四八一	一、四五〇		二、一七	一九、一〇〇
二、二五〇	五、三四七	一、五九三			

布哇に於ける日本人口の増加

布哇在留日本人職業別(概算)

全人口	一〇二、四七九
男女學生(七歳以上二十歳以下)	一四、八六一
幼兒(七歳以下)	二〇、〇〇〇
婦人	二〇、〇〇〇
製糖従業者	二七、六九六
製糖以外労働者	一〇、〇〇〇
家庭奉公人(クック、ウエーター、ヤードボーイ、下婢等)	二、二六〇
看護婦、産婆、爪磨、洗濯婦等	三〇〇
棧橋人夫、鐵道従業者	五五〇
船員(内島汽船會社)	一八五
漁夫	九〇〇
珈琲栽培業者	八〇〇
鳳梨栽培業者	一五〇
同上小作人	四〇〇

布哇に於ける各國人口消長 布哇在留日本人職業別

布哇に於ける衛生状態

鳳梨會社雇人

三〇〇

野菜、園藝業者

一〇〇〇

其他勞働的雜業

三、一五五

日本人商店員

二、五〇〇

外國人商店員

五〇〇

以上職業以外の者

六、九二二

布哇に於ける一般の疾患

一九一七年度半期に於けるホノルル日本人病院入院患者、内科的疾患一二四、傳染病六〇、外科的疾患二〇七、産婦人科疾患一二七、花柳病七、眼疾三に就て其重なるものを擧ぐれば、

肋膜炎  
胃 癌  
脚 氣  
肺 炎  
肝 癌  
腎 臟 炎

二四〇  
二五〇  
二〇八  
一〇一  
一三

頭部外傷

一〇六

頸部膿瘍

一〇

パンチ氏病

一

肛門周圍膿瘍

四

鼠蹊ヘルニア

三

肛門閉鎖症

一

扁桃腺炎

一〇

膽石症

五

蟲様突起炎

四八

痔瘻及痔核

一六

膀胱結石症

一

足部外傷

一〇

下腿蜂窠織炎

二

下腿骨々膜炎

二

四肢濕疹

四

子宮外妊娠

三

布哇に於ける一般の疾患

流産	九
異常分娩	三
胎盤遺残	二
子宮内膜炎	四〇
子宮筋腫	三
悪性脈絡膜上皮腫	一
卵巣炎	一六
卵巣嚢腫	四
悪阻	四
子癇	一
子宮纖維腫	一
子宮癌腫	一
喇叭管炎	一一
梅毒	七
トラコマ	二

肺炎

布哇の気温は一年を通じて六二度より八九度の間にあれども肺炎症は比較的多く殊に一〇歳以下の小

蟲様突起

兒を襲ふ事屢々なり、然れども手術後の肺炎は甚稀れなり、蟲様突起炎は急性のもの非常に多し、邦人は能く此の疾病の恐る可きを知れるが故に下腹部の疼痛を自覺したる時は直ちに醫師の診察を請ふを常とす、然れば早期手術は日本にては想像し能はぬ程多くして前表に掲げし如く日本人病院のみにても四八の手術例を數ふ、内ノートオペラチオンは甚尠なく尙インテルワルオペラチオンの如きは殆どある事なし、患者の多數は労働者なればにや時日を要する手當を好まざる傾向あり。

子宮外妊産後脚氣肺結核

子宮外妊、喇叭管炎、産後脚氣、乳兒脚氣も布哇にては多き部類に屬す。肋膜炎、肺結核も亦多く癩腫は此一〇年來時に見る事あり、之れ移住者の年齢漸く老境に近きたるが故なり。

絶對に布哇に存せざる疾病

絶對に布哇に存せざる疾患は狂犬病及咬蛇症なり、布哇に於ては熱帯圏なるにも拘らず蛇屬の棲息するもの全くなく然も輸入馬糧は嚴重なる瓦斯消毒を施して蛇屬の混入を防止し、又犬は輸入の際狂犬病の潜伏を慮り一定期間上陸を禁止し居るによる、之れ等の周到なる注意によりて危険なる疾病を完全に防止し得たるは吾人の感嘆して止まざる所なり。

布哇に於ける熱帯病(附傳染病)

布哇にはアノフェレス蚊屬の棲息を見ず、次に記載する種類のみ存せり。

Culex Fatigans.

Stegomyia Calopus.

布哇に於ける蚊屬

布哇に於ける熱帯病(附傳染病)

*Stegomyia Scutellaris.*

黄熱病  
フィラリ  
ベスト  
チイフス  
アメバ赤  
痢  
布哇熱

然ればフィラリヤ及黄熱の發生を想像し得可き状態にあれども、幸にして未だ黄熱の發生を聞かず、フィラリヤ患者は時に見る事あり、ベストは約二十年前エンデミーを見たれども其後絶えて發生せず、コレラも同様に起りたるを聞かず、チイフスは毎年可成り多數發生す一九一七年六月より翌年五月に至る一年間に於て全布哇群島に於けるチイフス及バラチイフス患者數一九一八なり内死亡人員は五七を算せり、アメバ赤痢及熱帶肝膿瘍は比較的多し、今より約一五年前には布哇各島に一種の熱性傳染病盛に發生してハワイアンフィーバーと特種の病名を附したりしが、漸く其本體を見るに至りてバラチイフスB型なりしと云ふ。

一九一八  
年度傳染  
病數

一九一八年度に於ける統計によるに布哇全島に於ける傳染病患者總數は二〇三九人にして前年に比して一七八人の増加を示したり、然れども此の内には左記の如き疾患をも含有せる事勿論なり。(後章傳染病報告規則参照)

癩病、百日咳、結核、水痘

布哇に於ける衛生的施設

一、水道

布哇に於ける水道は何れも小規模にて吾人の目を引くものなし、ホノルル市の大部分は市内の稍々人

煙薄き地ボンチポール及カリヒに於ける密閉せる鑿井より水揚ポンプによりて大量の清水を供給せられ、市の一部分は市外約六哩ヌアヌバリ山嶺の貯水池より供給せらる、水量豊富にして未だ斷水したるを聞かず、用水は飲料用のみならず灌漑用にも不淨用にも供する故小都市にも拘らず使用容量の割合比較的多し。

水質

水は稍々硬水なれども清澄にして臭氣なく含有么微體少し、然れども貯水池よりの水は完全なる淨水池なき爲め僅少なる降雨の際にも赤褐色の混濁を生じ可成りの不潔物を含有せり、當局は明礬を混じて化學的清淨法を講じ居れども市人を満足せしむるに足らず、衛生局はクロールカルク (Chlorine apparatus) を使用し尙毎日微菌學的検査を行ひ居れども早晚一大改良を要す可き輿論あるは當然の事なり。

ソートン  
鑿井の利  
用マノア山

余曾て市の西方郊外モアナルアに遊び、車を驅つて霸王樹高く茂れる高丘に登れり、茲は市の中心を去る約五哩にして東の方ホ府の粉壁を望み西の方丘陵起伏するの間明鏡の如き一碧の湖を見る、余は唯風光の雄大なるを賞して止みしが、歸來ホ府の飲料水難を聞き此の湖こそ適當と思ひ調査せんとしたるに、湖はソートンレーキと云ひて全くの鹹湖なるを知りて中止したり、ホ府にては絶海の孤島なれば何れの水流も貧弱にして水道に利するの河川なく湖水なく遮斷す可き溪水もなく又清泉もなし、然れば鑿井を利用せるは止なしと雖もマノア山鑿可成りに深く山秀いで樹木多くして山雨時に下るを見れば源泉は溪水の利用す可きものあらざるなからん哉。

布哇に於ける衛生的施設



ヌッアヌ山間に於ける貯水池は一見したる處谿水にもあらず、源泉にもあらず山雨其儘の貯水槽の感あれども果して如何なる種類の水源に屬するや余未だ之を詳にせず。

附記

米國に於ける上水道消毒法概念

一九〇八年シカゴに於ける家畜場及びジェルシイ市に於て始めて飲料水を漂白粉を使用して消毒し好果を收めたりしが、一九一一年紐育市の水道水源クロトンダムに於て鹽毒消毒即ち漂白粉を使用せる消毒法を試みたり越えて三年にして液體鹽素に之を改めたり。

爾來(一九一二年)紐育市、シカゴ、フィラデルフィヤ、バルチモア市等の米國に於ける大部分の都市は此の法を採用するに至れり。

ヌッアヌ水流混濁すると雖も化學的清澄法に加ふるに最大高壓濾過法を以てして純米國式淨水法(America's System, Jewell.)を採用せば或は其効を擧げ得んか。

二、下水

ホノルル市に於ける下水の設備は完全にして地下を走る夥多の下水鐵管網は遂に一條の本管に移りカカアコ地方より洋中數哩の地點に開口す、市の東西に位する丘陵バチフィックハイト及アレアハイトに於ては未だ下水の施設あらず、斯かる地に於ては Cesspools を使用す、即ち土壤を穿ちて直徑一〇尺深さ約五〇尺の垂直洞を作り鐵管によりて凡ての不淨を導き土壤に吸収せしむ、若し充滿する時は

セズプー  
ル

移動タンク

衛生局は直ちにポンプを以て汚水を移動タンクに吸引して市外に搬出す。市以外に於ては凡て此の式を採用せり。

三、家屋建設規則

商業區域に於て煉瓦石造の高層家屋連なれども、住宅區域は重に瀟洒なる木造平屋建にて建物の櫛比するを避けて庭園を家屋と交互に排して通風に便し尙柵を離るゝ事五フィートにあらざれば家屋の建設を許さず、床は地面を距る二〇インチ以下なるを許さず。

四、鼠屬の捕獲(Ratcampaign.)

ホノルル市内に於ては四季を論ぜず毎日多數の捕鼠器を使用して鼠屬を捕ふ一九一八年度報告によるに一六二七五の鼠屬を捕獲したりと云ふ、凡ての捕鼠は必ず一定の検査を行ふを常とす、近來傳染病菌を發見したる事なし。

布哇に棲息する鼠屬の種類は次の如し、

Mus Alexandrinus.

Mus Rattus.

Mus Norvegicus.

Mus musculus.

北米合衆國の參戰以來捕鼠は衛生上のみならず穀類戰時節約施設の方面よりも重要な仕事の一部と

布哇に於ける衛生的施設

布哇に棲息する鼠屬

捕鼠と穀類節約

見做さるゝに至れり。

捕鼠は他の都市及村落に於ても勵行せらる。

五、蚊屬の驅除 (Mosquito Elimination)

ホノルル市の内外及村落に於ける小溝、Cesspools、溜り水、沼池、水槽の如き凡て蚊屬發生の恐れある個處には衛生局は許す限り石油の注入を行ふ、ホノルル市内のみにも其注入個處一九一八年度の報告によるに二一六九箇處に及ぶ、此の事業に伴ふて低下地を埋め、溜水を排し、罐瓶等の水流防害物を除去する事も亦衛生局の管理に屬す斯くして無疫の熱帯樂園の建設を見たるは一に當局の努力の然らしむる處なり。

六、貸家規則

此の規則の一部として一家屋に三組以上の夫婦共棲する時は厨房及便所は各別に二ヶ以上設備せざる可からず、斯くの如きは便所の構造日本に比して簡單なるにもよるべけれども衛生上注意周到の事と云ふ可し。

七、家屋消毒

衛生局は種々なる傳染病の發生せる時は時に應じて室内、各層全體に於ける居室、便所、Cesspools、ペランダ、厨房、家敷、庭園、發掘墓地等に消毒法を施行す、一九一八年度に於てホノルル市内のみにて二〇七〇個所を消毒したり、其最も多きは結核に對する消毒にして次に位するものはチフスな

り、ディフテリヤ、癩病、腦脊髄膜炎、アムバ赤痢、猩紅熱、破傷風、マラリヤの發生の際にも亦消毒する事勿論なり。

八、大掃除日 (General cleaning day)

毎年一〇月九日を以て布哇全島に於ける火災豫防大掃除日となして火災豫防と疾病豫防を兼ねて大掃除を斷行す、此の月九日はシカゴの大火を記念したるにて兼ねて雨季に入らんとする用意なるなり、此の日衛生局は塵埃運搬自動車を出動せしめ向スタンダード石油會社よりも二臺の運搬車を使用して全市の塵埃は二日の間に市外に搬出せらる、掃除は各自の公徳に一任して當局の嚴なる干渉なきは日本と趣を異にすれども一部市民は其主意を深く解せざるにや勵行し居らざる如き感あり。

九、植樹日 (Arbor day)

毎年一二月第二木曜日を植樹日として農林局より各學校の生徒及一般人民に苗木を分與して植樹を奨勵す、布哇全人口二五〇、〇〇〇として内十分の一の人口によりて各一植樹を得たりとするも一年二五、〇〇〇本を増殖せしめ得可し、斯かる熱帯國に於ける孤島にては氣候飲料水の上に利する事蓋し大なる可し、土人の言に布哇に於ける氣温は年毎に低下する傾向ありと、然も樹木増殖の奨勵によつてホノルル市に於てすら樹林の數昔日の比にあらずと云ふ、此の間の消息を語るに足らん乎。

此の事たるクリーブランド大統領の時スターリング、モートン農務卿によつて始めて主唱せられたるにて最初の植樹日にはネブラスカ州のみにて一、〇〇〇、〇〇〇本の樹木の増殖を見たりと云ふ。

火災豫防  
と大掃除

植樹と氣  
温

一〇、食糧局 (Pure food Bureau.)

衛生局に於ける最も重要な課として食糧局あり、ミルク、クリーム成分の検査、レストランに於ける食物に對する條件、罐詰類、飲料水、砂糖、蜂蜜、菓汁類、食物、染料、燻製鮭類、果實類、酒類、石鹼類、香油類、醫藥用錠劑等の検査嚴密を極む。

當局の指令は時機に應じて刻々變化し、凡ての方針常識的にして假令ば、參戰と同時に之れに伴ふ花柳病の傳播を豫期して飲食物を取り扱ふ職にある者以上の疾病に罹る時は醫師の注意を待つて相當の措置を取れる如き、尙世界的感冒流行の際には市場に於ける食物包紙に新聞紙の使用を嚴禁せる如き、又アイスクリームを盛るグラスを禁じて新らしき紙製皿及カップを各人毎に供せしむるが如き、或は一九一八年オアフ島禁酒以來化粧香水ベイヤムを飲用して數名の斃死者を生ずるやメチールアルコールを以て製せるベイヤムの驅逐を勵行し理髮所藥種化粧料商及個人所有のベイヤムの分析を企圖したるが如き、數へ來れば此の類の新令場合に應じて發布せらる、斯かる老婆的措施は多數住民の感知せざる處ありと雖も刮目の士の嘆賞をかざる處なり。

事少しく餘事に亙ると雖も左の事實は日常食糧に關する重大事項なれば茲に附記する事とせり。

合衆國の參戰するや食糧監督局は食料調節及取締に關する施設を司り左の諸規則を制定せり。

一九一七年一〇月二二日 酒類制限法制定

一九一八年一月一五日 肉無日 (Meatlessday) 規定

布哇に於ける食糧取締規則

一九一八年一月二七日 戰時麵麩燒令實施

同 小麥無日 (Wheatlessday) 公布

同 四月一〇日 オアフ島禁酒實施

同 五月一六日 米穀販賣取締規則發布

同 食糧委員日本米輸入卸商に對し暴利取締開始

是より先一九一一年春布哇縣會に於ては食糧自給並に調節 (Control and Reservation of Food Supplies) に關する法律を制定せり要は食料品の生産を奨励増加し且つ食料の浪費を防止するにありて例令ば農業者のみならず國民全體として農作物其他の食糧品の生産高を増加す可く努力する事即ち其目的を達する爲には凡ての主婦は庖厨を始末して食物に無駄の生ぜざる事を心懸ける事或は個人の庭園に (假す狹隘の地と雖も) 蔬菜を栽培する事等の如し而して此の法律を實現せんとして十六歳以上の婦人 (外國人たるを問はず) に食糧調節會員たらん事を各種團體をして各戸に付て勸誘せしめカードを配附して住所、姓名、家族の數、菜園の有無、食糧調節運動に参加の可否を記入せしめ之をワシントンの食糧監督官に送附して會員たる者には窓扉に貼附す可き徽章 (麥の穂にてデザインを施したる宣傳書を兼たる書入カード) 及袖章を與へて一般に宣傳を試たり。

當時住宅區域に於て入口に添へる一坪の地と雖も蔬菜の栽培せらるるを見たる余は制令の實施に忠實なる市民の態度に感嘆せり、余も勿論診察所に面せる地は菜園たらしめたり。



當時ホームカードを各戸に配附して何故に食糧自給調節の必要なるやを理解せしめ尙其方法を指示するに努力せり、左に参考として其カードの全文を示す事とせり。

*Hang this in your kitchen*

## HOME CARD

### UNITED STATES FOOD ADMINISTRATION

#### WHAT YOU CAN DO TO HELP WIN THIS WAR

*See other side showing why you should do it.*

Our problem is to feed our Allies this winter by sending them as much food as we can of the most concentrated nutritive value in the least shipping space. These foods are wheat, beef, pork, dairy products, and sugar.

Our Solution is to eat less of these and more of other foods of which we have an abundance, and to waste less of all foods.

**Bread and cereals.**—Have at least one wheatless meal a day. Use corn, oat, rye, barley, or mixed cereal rolls, muffins, and breads in place of white bread certainly for one meal and, if possible, for two. Eat less cake and pastry.

As to the white bread, if you buy from a baker, order it a day in advance; then he will not bake beyond his needs. Cut the loaf on the table and only as required. Use stale bread for toast and cooking.

**Meat.**—Use more poultry, rabbits, and especially fish and sea food in place of beef, mutton, and pork. Do not use either beef, mutton, or pork more than once daily, and then serve smaller portions. Use all left-over meat cold or in made dishes. Use soups more freely. Use beans; they have nearly the same food value as meat.

**Milk.**—Use all of the milk, waste no part of it. The children must have whole milk; therefore, use less cream. There is a great waste of food by not using all skim and sour milk. Sour milk can be used in cooking and to make cottage cheese. Use buttermilk and cheese freely.

**Fats (butter, lard, etc.).**—Dairy butter has food values vital to children. Therefore, use it on the table as usual, especially for children. Use as little as possible in cooking. Reduce the use of fried foods to reduce the consumption of lard and other fats. Use vegetable oils, as olive and cottonseed oil. Save daily one-third of an ounce of animal fat. Waste no soap; it contains fat and the glycerine necessary for explosives. You can make scrubbing soap at home, and, in some localities, you can sell your saved fats to the soap maker, who will thus secure our needed glycerine.

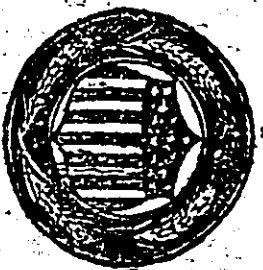
**Sugar.**—Use less candy and sweet drinks. Use less sugar in tea and coffee. Use honey, maple sirup, and dark sirups for hot cakes and waffles without butter or sugar. Do not frost or ice cakes. Do not stint the use of sugar in putting up fruits and jams. They may be used in place of butter.

**Vegetables and fruits.**—We have a superabundance of vegetables. Double the use of vegetables. They take the place of part of the wheat and meat, and, at the same time, are healthful. Use potatoes abundantly. Store potatoes and roots properly and they will keep. Use fruits generously.

**Fuel.**—Coal comes from a distance, and our railway facilities are needed for war purposes. Burn fewer fires. If you can get wood, use it.

#### GENERAL SUGGESTIONS.

Buy less; cook no more than necessary; serve smaller portions.  
Use local and seasonable supplies.  
Patronize your local producers and lessen the need of transportation.  
Preach and practice the "gospel of the clean plate."  
We do not ask the American people to starve themselves. Eat plenty, but wisely, and without waste.



Do not limit the plain food of growing children.  
Do not eat between meals.  
Watch out for the waste in the community.  
You can yourself devise other methods of saving to the ends we wish to accomplish. Under various circumstances and with varying conditions you can vary the methods of economizing.



## UNITED STATES FOOD ADMINISTRATION

### WHAT YOU ARE ASKED TO DO FOR YOUR COUNTRY

*See other side showing how you can do it*

THE men of the Allied Nations are fighting; they are not on the farms. The production of food by these countries has therefore been greatly reduced. Even before the war it was much less than the amount consumed. The difference came from America and a few other countries. Now this difference is greater than ever and, at the same time, but little food can be brought in from the outside except from America.

Therefore, our Allies depend on America for food as they have never depended before, and they ask us for it with a right which they have never had before. For to-day they are our companions in the great war for democracy and liberty. They are doing the fighting, the suffering, and dying—in our war.

**Why we must send more wheat.**—England, France, Italy, and Belgium, taken together, import in peace time forty per cent of their breadstuffs. But now, with their reduction in harvest, they must import sixty per cent. We must increase our normal export surplus of 88,000,000 bushels to 220,000,000 bushels. It can be done but in one way: by economizing and substituting. The people of the Allies can not substitute corn alone for bread, as we can. They are using other cereals added to wheat flour to make war bread, and can thus use up to twenty-five per cent of corn for wheat. We have plenty of corn to send them, but, except in Italy, whose people normally use it, our Allies have few corn mills, and corn meal is not durable enough to be shipped by us in large quantities. Moreover, the Allied peoples do not make their bread at home; it is all made in bakeries, and corn bread can not be distributed from bakeries. There is but one way: we must reduce our use of wheat. We use now an average of five pounds of wheat flour per person per week. The whole problem can be met if we will substitute one pound of corn or other cereal flour for one pound of wheat flour weekly per person; that is, if we reduce our consumption of wheat flour from five pounds a week to four pounds a week.

**Why we must send more meat.**—The food animals of the Allies have decreased by 33,000,000 head since the war began; thus the source of their meat production is decreasing.

At the same time, the needs of their soldiers and war workers have increased the necessary meat consumption. Our meat exports to our Allies are now already almost three times what they were before the war. The needs of the Allies will steadily increase, because their own production of food animals will steadily decrease because of lack of feed for them. If we will save one ounce of meat per person per day we can send our Allies what they need.

**Why we must send butter and milk.**—The decreasing herds and the lack of fodder mean a steady falling off in the dairy products of our Allies. They have been asking for larger and larger exports from us. Last year we sent them three times as much butter and almost ten times as much condensed milk as we used to send them before the war. Yet we must not only keep up to this level, but do still better.

**Why we must send sugar.** Before the war France, Italy, and Belgium produced as much sugar as they used, while England drew most of its supply from what are now enemy countries. France and Italy are producing less than they need, while England is cut off from the source of seventy per cent of her usual imports. These three Allied countries must now draw 2,000,000 pounds more of sugar than they did before the war from the same sources from which we draw our supplies. We must divide with them. We can do it by economizing. The usual American consumption per person is just double that of France.

Let us remember.—Let us remember that every flag that flies opposite the German one is by proxy the American flag, and that the armies fighting in our defense under these flags can not be maintained through this winter unless there is food enough for them and for their women and children at home. There can only be food enough if America provides it. And America can only provide it by the personal service and patriotic co-operation of all of us.

The small daily service in substitution can be done by all; the saving in waste by the majority, and the lessening of food consumed by many. This individual daily service in 20,000,000 kitchens and on 20,000,000 tables multiplied by 100,000,000 which is the sum of all of us, will make that total quantity which is the solution of the problem.  
From No. 66  
Ed. Aug., 17—1,000 M

斯くて食糧の調節を行ひ尙暴利取締令によりて當地米穀輸入商に向て米の原價賣價利潤等を合衆國食糧局に届出をなすしめ、又布哇米を大陸に輸出するには同局の特許を要すしめ、尙麵粉使用制限令、

布哇に於ける衛生的施設

公定相場揭示令を制定して以て日常必須食品の價格暴騰を防げり。

二、患者運搬自動車(Ambulance)

ホノルル市には警察署に處屬せる一臺の患者運搬車あり大型自動車にて患者は臥床の儘運搬せらる、看護婦一人付添ひて負傷者其他の患者搬出の用ある時は直に出動す、重患者を病院に收容する際にも一般醫師に對して使用を許可す、不時の大負傷者の生ぜし時は凄愴なる一種の警笛を鳴らして市を疾走し直ちに患者を警察署の下に收容して應急處置を取るを常とす。

一二、學校衛生

衛生局は布哇全島に於ける學校衛生を管理す、ホノルル市に於ける二三の公立學校に於ける生徒一〇、八四七人に就て行へる検査の結果は八、六三一人の不健全者を得たり。

一九一八年度細別表を見るに次の如し、

- 齒牙缺損 五、四八二
- 扁桃腺肥大症 一、五〇〇
- アデノイド 三五七
- 風癆病(Pedicularis) 五三二
- 皮膚疾患 一〇五
- 疥癬(當地にはPorto Rican Itch) 七七

小學校に於ける女の疾病

眼疾(トラコマー、結膜炎七五)

- 營養不良症 一五七
- 結核疑似症 三〇八
- 心臟疾患 一六
- 輪癬 九
- 傳染病 二
- 耳疾患 四七
- アストマ 一六
- 淋巴腺炎 三
- 股關節脱臼 一四
- 前膊骨折 一
- ニスタグムス 二
- 腋窩部膿瘍 一
- 濕疹 一

一九一七年度に於ける齒牙、眼、耳鼻咽喉疾患数を國民別によりて示せば次表の如し。

布哇に於ける衛生的施設

小學生の  
眼、歯、  
喉、耳、  
疾、牙、  
患、鼻、徒

學校衛生  
管理醫と  
生徒父兄  
との連絡

布哇に於ける衛生状態

	齒牙缺損數	鼻及咽喉疾患數	眼及耳疾患數
日 本 人	二、三四六	四八七	三四九
布 哇 人	五五一	一二四	七五
ホルトガル人	一、〇七五	四三四	一一一
支 那 人	一、一六四	二六九	一三四
混血布哇人	八二〇	二四七	一二二
ポルトリカン	六一	四四	三九
比 律 賓 人	一九	九	二
朝 鮮 人	五五	一〇	六
其 他	三七四	一三九	二七

衛生局に於ける學校衛生管理醫は體格検査の結果を懇篤なる通知書に記載して生徒の父兄に送致し、尙父兄の好む處の醫師に於て再診を受けしめ、當該醫師の裏書を得て各々適當の醫師的處置を受けしむ、昨年度に於ける扁桃腺肥大症及アデノイド手術數は實に八一五例を數ふるに至れり。當局は發見したる學齡童女の疾病に就ては醫術的措置を勵行して些の放任的態度を持せず専心學校衛生に盡力して其目的を遂行せんをす。

當局の發給する通知書を左に示さん、

Pounds underweight.

This notice does not exclude pupil from school.  
Territorial Board of Health, Hawaii.

Medical Supervision and Treatment of school children.

To the parent or guardian of ..... pupil attending ..... school.

This pupil is in need of medical attention on account of .....

It is suggested you take him and this card to your family physician or a dispensary for advice and treatment.

Respectfully,

Medical inspector of school.

Take this notice to your physician.

The physician in charge is requested to fill out and return card to child after examination.

I have examined to-day .....

and found the following condition: .....

and have advised parent as follows: .....

Respectfully yours,

M. D.

Date .....

布哇に於ける衛生的施設

之れによれば醫師は其持參人たる學齡童女の體格を検し缺損又は疾病を發見せば通知書に記載するの義務あり、尙父兄に宛て、其疾病に對する善後策に就て警告を與へざる可らず、斯くて學校衛生管理者と父兄とは連絡せらるゝなり。

一九一八年一〇月スペイン感冒流行の際ホノルル市赤十字はゼリット、ワイルダ夫人を委員長として學校の衛生状態調査委員を擧げ、當市に於ける學校二二生徒合計二〇、〇〇〇人に就き検査をなさしめたるが、衛生状態は極めて良好にして西班牙風邪患者として歸宅療養を命せられしは二一名に過ぎざりき、此の検査は臨時的のものにして機宜に適したるものと云ふ可し。

一三、衛生局に於ける諸検査

當局に於ては左の如き検査も亦施行す左表は一九一八年度に於ける検査簿の報告なり。

ワツセルマン氏梅毒診断	一四二
チイフス血清凝集反應	二八二
飲用水の微菌學的検査	一〇
デフテリア菌の培養	一一
チイフス患者糞便検査	五七
患者住宅訪問検査	八、六〇三

患者衛生局召喚検査

一〇、〇二九

健康證明書下附許可數

一五、七九四

同 同 不許可數

一七九

幼兒種痘施行數

四、七四九

一四、結核豫防局 (Anti-Tuberculosis Bureau.)

衛生局内には結核豫防局ありて専ら結核の豫防并に調査に従事す、一九一八年度布哇全島結核患者新報告數は九三七なり、現在に於ける新舊患者總數は二九二八にして内本年度に於ける死亡數は四六六なり、患者は公立肺療院リアヒホームに收容せられ居るものと然らざる者とあり、新患者九三七の内七一四は私宅又はリアヒホーム以外の療院に在り、斯る患者に向つては衛生局所屬の看護婦は毎月約二回の訪問を行ひ患者を慰藉し兼て其經過を視る、一年間の訪問數一〇六〇〇度なりと云ふ、以て當局の斡旋努力の程度を窺知し得可し。

當局の報告を見るに新患者の内四三は既に肺疾患者なりし同一家族内より發生せる事を知る、斯かる状態なれば個人として療院に入る能はざる者には勉めて公立肺療院に入らん事を勧め當局の眞意を患者に會得せしめざる可らず。

一九一八年度報告によるに二九二八の結核患者總數の内布哇を去りて歸國せる各人種總數大約四三二

衛生局所屬看護婦の結核患者訪問



米大陸方面より日本に歸國する同胞結核患者

布哇に於ける衛生状態

即ち約七分の一なりと云ふ、而して日本人結核患者の毎便船に於ける歸國者數は未だ明ならずと雖も其數蓋し鮮少にはあらざる可し、吾人一度便船毎に故國に輸入する結核患者數の上に想到せば轉た寒心に堪へざるなり、斯くて結核患者は日本各地に撒き散らさるゝなり、余は不遇なる患者の爲め又公衆衛生の爲め仁慈なる日本當局の注意を喚起せむ事を切望に堪へず。

左に參年間に於ける新患者發生數を示す。

	一九一五—一六	一九一六—一七	一九一七—一八
ホノルル市	四六八	三八二	三五〇
オアフ島 (ホ府以外)	七七	八一	一四〇
布哇島	一七九	一九三	一七三
マウイ島	一一〇	一五四	一四六
カワイ島	九九	九〇	一二八
總數	九四三	九〇〇	九三七

結核患者數の増減を前年度數に比し人種別に細別せば次の如し。

(一九一八年度)

人種	増	減	人種	増	減
布哇土人		三九	葡人		二〇
			葡人		
			牙人		
			人種		

結核患者の出産地分類

日本人	七	其他ノ人種	二〇
支那人、比律賓人、朝鮮人	五一		

結核患者を其出産地に就て分類せば次の如し。(一九一八年度)

布哇に於て出産せる者	三〇九
亞細亞洲	五〇三
歐洲	四四
亞米利加洲	二二
不明	五二

一五、癩病取締規則

布哇に於ては癩病患者を診たる醫師は直ちに衛生局に報告するの義務あり、而して當局は充分なる検査を行ひ確たる診斷を得たる時は患者の欲する任意醫師の立會診斷を仰ぎ茲に於て始めてホノルル市内カリヒに於けるカリヒ病院 (Kalih Hospital) に收容して充分なる治療を施す、然して或る期間を経過するも輕快の見込立たざる者はモロカイ島に於ける癩患者定住地 (Molokai Leper Settlement) に移すを常とす。

一九一八年度報告によるに收容癩患者の總數は六〇八にして男子三七七女子二三一なり、前年度より二一の増加を示せり、此れ等患者を入種別にせば次表の如し。

布哇に於ける癩病的施設

患者の欲する醫師の立會診斷

	男	女	總數
亞米利加人	二		二
白耳義人	一		一
支那	二五		二五
比律賓	一二		一二
獨逸	二	二	四
布哇土人	二一〇	一五七	三六七
日本	一二	一	一三
朝鮮	一二		一二
混血布哇土人	六四	五七	一二一
葡萄牙人	三三	一四	四七
ポルトリカン	二		二
西班牙人	二		二
全總計	三七七	一三二	六〇八

布哇に於ける衛生局

當局は一九一七年プラット氏(Dr. J. S. B. Pratt)局長として在職しポーター氏(K. B. Porter)書記官たり、六人のメンバーを有し、一〇人の行政局員及七人の癩病施設員、八人の事務員、一七人の衛生法執行并に検査員より成る。

衛生局の諸報告

衛生局の諸經費

諸般の衛生的施設に關する報告を左に述べて當局施設の一般を示す事とせん。

- (一) 一九一七年度に於ける諸經費
- 諸 雜 費 二一、五二七・〇七弗
- 衛生的施設費 四三、一〇六・五〇弗
- 食料局費 七、三八二・五〇弗
- 細菌研究局費 二、八二三・六七弗
- 衛生局所屬醫師手當 二二、九七五・〇〇弗
- 學校衛生費 二、九六八・五一弗
- 隔離所費 三八、八九九・三二弗

布哇に於ける衛生局の諸報告

布哇に於ける衛生状態

鼠屬驅除費	一〇、四五六・五六弗
蚊屬驅除費	一三、二二九・〇〇弗
結核患者療養費	七七、〇六八・六一弗
癩患者療養費	二二七、一八四・九〇弗
瘋癩患者療養費	七七、二一九・〇九弗
總計	五三三、八四〇・七三弗

人口地方別

(二) 一九一八年度に於ける布哇人口地方別

ホノルル市	七五、〇〇〇
オアフ島	四一、五〇〇
ヒロ市	一〇、五五〇
ハワイ島	五八、九五〇
マウイ島	三八、五〇〇
カワイ島	三一、〇〇〇
カラワオ島	六八〇
總計	二五六、一八〇

(三) 一九一八年度に於ける布哇人口人種別

人口人種別

亞米利加人	三〇、四〇〇
英國人	二二、二五〇
獨逸人	二〇、四〇〇
露國人	二二、八五〇
支那人	一〇六、八〇〇
比律賓人	五、〇〇〇
布哇土人	五、六四〇
日本人	二四、二五〇
朝鮮人	一〇、四六〇
亞細亞混血布哇土人	五、二〇〇
葡萄牙人	二、二七〇
ヨーロッパ混血布哇土人	六六〇
ポルトリカン	二、二七〇
西班牙人	二、二七〇
其他	六六〇
總計	二五六、一八〇

衛生局の諸報告

死亡出生  
地方別

(四) 一九一八年度に於ける死亡數及出生數地方別

布哇に於ける衛生状態

	死亡數	出生數
ホノルル市	一、三九五	三、〇三四
オアフ島	五三〇	一、四四一
ヒロロ市	二六三	四七四
ハワイ島	七二三	二、〇一〇
カラワオ島	八〇	一六
カワフイ島	三九六	一、〇一九
マウイ島	六三三	一、四一〇
總計	四、〇一〇	九、四〇四

死亡出生  
人種別

(五) 一九一八年度死亡數及出生數人種別

	死亡數	出生數
亞米利加人	一六四	三〇六
英國人	二七	六三

主なる死  
亡原因

(六) 一九一八年度に於ける死亡の主なる原因

下痢症

衛生局の諸報告

	死亡數	出生數
獨逸人	二七	二七
露國	二九	二〇
支那	三三一	六六六
比律賓	三六四	四五六
布哇	八八三	六三五
日本	一、三六三	四、五七九
朝鮮	七三	一八三
混血布哇	二七五	九九二
葡萄牙人	三三二	一、〇四八
ポトリカン	九三	二三七
西班牙人	四三	一六一
其他	三八	三一
總計	四、〇一〇	九、四〇四

六〇〇